我楽多通信

No. 184
2020年-10月号

発行所 滋賀新堀ギター音楽院 近江八幡市中小森町270-11 TEL&FAX 0748-33-8335

滋賀新堀ギター音楽院の合言葉は
みんなで市民ギターオーケストラに参加しよう！”

「我楽多」の由来につて

「我楽多」は私がつくった言葉ではありません。20世紀最後の1999年12月、雪深い新潟の大島村(当時、現上越市大島区)で生まれました。人口2,400人の小さな村には木造校舎を再利用した音楽専門学校”新堀芸術学院”があり、スタッフや教育実習生によりギターや大正琴、ピアノ、ウクレレ等の熱心な普及活動が行われておりました。その甲斐あって2,400人の村で200名近い人たちが楽器演奏を楽しむまでになり、村は“音楽村”を宣言し、更に音楽による村づくりを目指すことになったのです。コーラスグループも出来、和太鼓集団も起ち上げられ、音楽愛好者は300人を超えるほどでした。

そんな10月のある日、1本の電話が私にかかってきました。相手はNHKBSのディレクター。「1,000人の力」という番組をつくるので協力してほしい。全国7カ所の地域を選んで、それぞれが1,000人で行う特色ある企画を考えているので、あなたの所は音楽村宣言をしているので、是非1,000人でオーケストラをやってほしい、とのこと。私は最初、300人近くの愛好者がいるから、その人たちをメインにしてあとは簡単な打楽器や手拍子等を組み合わせればできるかな、とその旨先方に言いましたら、そうではなく器楽愛好者でない一般の人達をメインにしたオーケストラにしてほしい。しかも、収録の日は翌年1月の下旬とのこと。「無理です。そんな短期間で準備できるわけがない。」と私。「そこを何とか!!」と押し問答を10分程やりあいましたが、その時一瞬「コップと茶碗ならできるかもしれない。」とひらめき、結局受けることにしました。曲は「春よ来い」にしました。コップと茶碗に水を入れて音階をつくり、で基本的な旋律を演奏し、ギター、大正琴、和太鼓、合唱、中学校の吹奏楽で伴奏及び前奏と間奏を行い、鍋の蓋やステンレスのボール、木の板、のこすき(除雪用の木のスコップ)は打楽器として活用する構成をつくりました。そこからは村が特別に予算を組み、4地区の区長が練習のリーダーとなり、有線放送で練習テープを流し、それに合わせて毎日練習する、という具合に村全体で動き出したのです。

と、こうして書き並べても、皆さんはどんなものかイメージが湧かないと思います。私がお伝えしたいのは、そんな小さな過疎の村で1,000人のオーケストラが誕生しこと、テレビで全国に放送され、視聴者投票でグランプリを獲得したこと、1,000人の演奏が終わった途端、応援団として来村していたヴァイオリンの葉加瀬太郎氏が興奮して指揮台に駆けあがり、私に抱き着いてきたことではありません。収録が終わって会場を後にする1,000人のメンバーが口々に「こんな楽しかったことは生まれて初めてだ。」と言ってくれたことです。その前年、村長選挙で村は2分し地区同士の遺恨もありましたがオケの練習を通して解消され、本番は皆の気持ちが一つになっていることを肌で感じることができました。後日4地区のあちこちで慰労会に呼ばれました。過疎と呼ばれる村で、なんと2時間。音楽の話題だけでお酒を楽しく飲むことができたのです。

そのオーケストラの名前が「我楽多オーケストラ」なのです。恐らく村の役場の人達が考えたのでしょう。とても良い名前だと思いました。私が強く推し進める市民ギターオーケストラの原点なのです。
コップや茶わんでも鍋やボールでも大勢で息を合わせて音を出すと、音が一つにまとまり不思議な感動が生まれてきます。どんなに大勢でも一体感を感じます。まして、それがきちんとした楽器の集まりなら更に素晴らしい感動が味わえることと思います。
この番組の録画は教室にあり視聴できます。VHSですが、機会を見てDVDに変換し、貸し出しもしたいと思います。是非皆さんもご覧ください。

教室からのお知らせ

10月の予定

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月の予定

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

※網掛けの日はお休みです。
◎第5週目は基本的にレッスンはありません。

それゆけ！市民ギターオーストラ

日常生活の様式が問い直されているコロナ禍の時代、初めの頃の感染する不安から、今では自分が知らぬ間に保菌者になっていて、他の人にうつして迷惑をかけるのではという不安な気持ちに変わってきています。

このような生活のなかでも、音楽を聴いて鳥肌が立つ演奏に出会うと、生きている充実感と安心感が生まれてきます。
鳥肌が立つといえば、一昨年の大垣市での「ボレロ」の市民オケ合奏のことを思い出します。何か今までとは違った空間に入った感覚、あの時の鳥肌はいったい何だったのかと考えてしまいます。他人の演奏では何度も経験したのに、自分の独奏では今までに一度もありません。そのあたりに合奏のすばらしさがあるように思います。きっと色々な要因があって引き起こされるのでしょうが、もう一度、市民オケ合奏で、あの鳥肌が立つ体験ができるように、勉強を続けていきたいと思っています。

（藤本 律男）

滋賀市民ギターオーケストラ……10/10、24…19:30　アクティー近江八幡　ファランドール、シルクロード
ギターアンサンブル湖風……10/10、24…18:30　アクティー近江八幡　ワルツ、J.U.スーパーUMIKZE
ふなっこ合奏団(ギター)……10/12、26…14:00～15:00　教室
あゆっこ合奏団(ウクレレ)……10/12、26…15:30～16:30　教室